

インターバンクの声（2014年9月17日）

いよいよ明日の日本時間未明、16-17日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）声明が発表されるが、前日となる昨夜、低金利政策が変更されない可能性があるとの一部報道があったようだ。このためニューヨーク・ダウが100ドルほどの上昇で終了、ドルは大幅ではなかったが、やや下落する場面もあった。かつてはインサイダー情報として、複数のリサーチ会社が米連邦準備銀行などから漏れ伝わる情報を基にした政策変更の可能性を伝えるレポートが出回り、そのたびに相場も大きく反応したものだ。ただ近年は、主に公的機関からの情報を中心に、何でもかんでも機密漏えいを疑ったり、極端な場合は訴訟にまで発展したりするリスクが想定されることで、めっきりこうした情報の類は減ってしまった。昨夜の情報も、やはりというかウォール・ストリート・ジャーナル紙のFEDウォッチャー、ヒルゼンラス氏の記事だった。こうした類の情報は、もはや同氏からしか発信されなくなってしまったと言っても良いだろう。記事の内容は、やんわりと低金利が変更されない可能性を記したものだと思っていたら、今までの声明文の「資産買い入れが終了した後、『相当の期間』低金利を維持する」との『相当な期間』の文言の削除が次回10月会合まで先送りする可能性がある」と具体的に記されている。明日未明の声明の内容がこの記事の通りになるとは限らないが、その通りだった場合、ヒルゼンラス氏に妙な嫌疑がかからぬか、いらぬ心配をしてしまう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。